

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海大学湘南校舎18号館	階数	地上8F
建設地	神奈川県平塚市北金目四丁目520番1外	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	850 人
気候区分		年間使用時間	3,700 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2014年2月 0.0	評価の実施日	2014年1月6日
敷地面積	3,500 m <sup>2</sup>	作成者	大成建設株式会社
建築面積	2,281 m <sup>2</sup>	確認日	2014年1月6日
延床面積	14,204 m <sup>2</sup>	確認者	大成建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2** ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 66%

上記+ 以外の: 66%

上記+ オフサイト手法: 66%

単位: (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

**LR のスコア = 4.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 建物は湘南校舎のキャンパスデザインを継承し、景観に配慮すると共に既存緑地を保全した。また免震構造を採用し安全性の向上をはかった。上部構造体は耐久性の高いRC造を採用し、梁の一部をS造とすることで柱のないフレキシブルな空間を確保した。設備は個別空調システム、全館LED照明などの最新技術を導入しランニングコスト低減を図った。また、自然採光、日射遮蔽、太陽光利用などの採用により、省エネルギー化とCO <sub>2</sub> 削減に配慮した。		<b>その他</b> ・建物のプレキャスト化による現場作業低減・工期短縮 ・振動、騒音の少ない電動式タワークレーンの採用 ・近隣への工事への騒音、振動シミュレーションの実施 ・工事中の定期的な清掃と散水の実施
<b>Q1 室内環境</b> ・トップライト、吹抜けによる昼光利用・自然換気 ・バルコニー、目録ルーバ、ブラインドによる昼光制御 ・西側面ガラスにLOW-Eガラスを採用 ・全館禁煙	<b>Q2 サービス性能</b> ・設備バルコニーの設置による更新性の向上 ・清掃性に配慮した内装材の選定と各部納まりの採用	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・湘南校舎のキャンパスデザインの継承 ・既存校舎からの外装デザイン・色彩の調和 ・市で定められた岡崎大橋からの富士山への眺望に配慮
<b>LR1 エネルギー</b> ・PAL値：219.99 ・CEC/AC値：0.8 ・CEC/V値：0.74 ・CEC/L値：0.32	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・リサイクル材を多く用いる ・節水型衛生器具の採用	<b>LR3 敷地外環境</b> ・CO <sub>2</sub> の削減 ・廃棄物処理負担の抑制

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 'ライフサイクルCO<sub>2</sub>'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される